



また、若い女性のケガの処置を行った際、同性だったので安心した様子で、女性消防士ならではの対応も経験できています。

— 休みの日の過ごし方 —  
最近ゴルフを始め、親と打ちっぱなしによく行っています。また、推し活で推しのアーティストのライブに行つて、全力で楽しんでリフレッシュしています。

— 今後の抱負 —  
救急救命士の資格を持っているので、医師の指示のもと薬剤投与



ふかえ かな  
深江 和奈さん

プロフィール  
2003年生まれ。大東地区出身。福島高校卒業後、福岡医健・スポーツ専門学校に進学。2024年4月から串間市消防本部初の女性消防士となり、その後半年間、宮崎県消防学校で知識や技術を学び、10月より現職。

## 消防のいろいろな制服

救助服



活動服



救急服



防火衣



などの救急救命処置を行う「特定行為」ができるように実習を受けたいです。活動の幅を広げ、どの現場でも活躍できるようになりたいです。

— 市民の皆さんへ —  
先日、小学校の避難訓練に参加した際「女性でも消防士になれるんだ」と興味を持ってもらえてうれしかったです。消防士は一番に人を助ける救命の最前線なのでプレッシャーもありますが、だからこそやりがいを持って働くことができます。  
女性でも消防士になれます。一緒に働く女性消防士が増える日を楽しみにしています。

串間市消防本部 ☎ 72-4151



— 消防学校を経て現場に —  
体力が全然なかったため、消防学校入校当初は不安でいっぱいでしたが、毎日走り込みを行い、また、分らないことはすぐに教官に聞くなどして自信をつけていきました。学校には私を含めて5人の女性の同期がいたのですが、辛いときには声を掛け合うなどしてみんなで支え合って乗り越えてきました。  
10月からは本格的に隊員として活動していて、救急出動対応も行っています。初出動の際は呼吸に苦しむ方の応急処置を行ったのですが、現場の緊張感に圧倒されるように処置ができず、訓練との違いを痛感しました。その後は出動の機会や訓練を重ね、適切な対応力が身に付いていると実感しています。

— 消防士を志したキッカケ —  
高校生のときに祖母が骨折して救急車と一緒に乗った際に、祖母が「男性に触られるのは恥ずかしくて嫌」と言っていたことが心に残り、それがきっかけとなりました。消防士について調べていく中で、女性消防士が増えていることを知り「自分もできるかもしれない」と思いが芽生えました。その後、学校の職場体験で消防本部に行き、実際に仕事を体験して「消防士になろう」と決心しました。

2024年4月から串間市消防本部に採用され、同年10月から本格的に隊員として勤務している深江和奈さん。  
今回、消防士の道を選んだ想いを聞きました。